



もうすぐ夏が やってくる

1年間の海の安全を祈願する海開き祈願祭が4月2日、シンリ浜とイーブビーチにおいて行われ、大田町長をはじめ観光協会比嘉会長など関係者が参加しました。

関連イベントとしてイーブビーチでは「ビーチテニス大会」(観光協会青年部主催)が行われ、11チーム約80人が参加。12歳の小学生から大人までサラサラの白い砂浜でビーチスポーツを楽しみました。

球美の里の子どもたちと 西銘老人クラブが交流

福島の子どものための保養施設「沖縄・球美の里」の子どもたちと西銘老人クラブ(盛吉秀雄会長)の交流会が3月30日にホテルドームで行われました。球美の里の小中学生43人は、クラブのメンバーから竹とんぼや、紙鉄砲、ペタンクを教してもらい、一緒に遊びながら交流しました。

手作りのおもちゃに子どもたちは大喜び。竹とんぼや紙鉄砲が初めての子も、遊び方から優しく指導してもらい、「楽しかった!」「またやりたいです」と大満足でした。



伝統を守るために 平成28年度久米島紬後継者 育成事業所卒所式

久米島町では久米島紬の技術や文化の継承を目的に、後継者育成事業を行っています。平成28年度は5人が久米島ユイマール館において研修を終え、卒所後は久米島紬事業協同組合の組合員となり一人前の織り子を目指します。

この事業は毎年行っており、今年も入所者を募集しています。詳しくは16ページをご覧ください。



地域活性化をめざして 奮闘中!

地域おこし協力隊の活動報告会が、3月24日に仲里庁舎で行われました。地域おこし協力隊とは、都市部の人材を地域で活用するため総務省が実施している制度。本町では、現在16人の隊員が観光、移住・定住促進、教育関係など、それぞれの分野で活動しています。西中学校の学習支援員の三木才代さんは「成功体験を積み上げ、自ら取り組む子に育てることを目標とした。また、生徒たちが『先生』と慕ってくれてとても嬉しかった」と発表しました。



地域に愛される保育園を目指して そらなみ保育園、子育て支援センター 「にじのひろば」開所

仲泊阿里の保育園が4月1日に「そらなみ保育園」としてスタートしました。町から委託を受けて久米島町社会福祉協議会による運営が始まり、定員100名で現在85名の園児を受け入れています。同協議会では儀間保育園も運営しており「子どもひとりひとりを大切に、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指す」を理念に、将来を担う子どもたちの保育に取り組んでいます。

また、4月10日には子育て支援センター「にじのひろば」が開所しました。月曜から金曜10時から16時(13時~14時は休憩)、0歳から就学前の親子を対象に4名のスタッフで受け入れます。



・そらなみ保育園 Tel.894-6203
・にじのひろば Tel.894-6206

交通死亡事故ゼロを目指して!! 春の全国交通安全運動 街頭パレードの実施

4月6日春の全国交通安全運動街頭パレードが開催されました。①歩行中・自転車乗用中の交通事故防止②後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底③飲酒運転の根絶の3点を全国重点としています。開会式では、今年度新しく就任した漢那徳雄交番所長のあいさつ等のほか、中央保育所の園児らが交通安全を誓いました。



子育て支援に役立てて あみだくじ収益金の一部を寄付

3月22日、久米島商工会青年部は、町社会福祉協議会へ久米島まつりで行ったあみだくじの収益金の一部(5万円)を寄付しました。

商工会青年部の田場部長が、島の子育てにおける支援に役立ててほしいと寄付を手渡すと、吉元事務局長は「社協は地域住民の活動を支援することが目的であり、今回頂いた寄付は子育て支援に役立てます」とお礼を述べました。



家庭的な環境で 異年齢保育を!

久米島で初となる家庭的保育事業所「わかば」が開所しました。「すべての子どもが健やかで心育つよう支えます」を保育理念に保育士2名、保育補助員1名の3名のスタッフで定員5名の受け入れが可能です。少人数を対象とするきめ細やかな保育ができ、大きな期待が持てる事業所です。

住所/字比嘉184 Tel.080-9850-4062

